



2025年2月9日(日)

「仏教を聞き語り合う会 (同朋の会)」

住職が、お話しします。テキスト『歎異抄 白日抄』

光といのち

第152号

—春彼岸—

2025年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌 (井上孝昌)



2024年12月15日(日)

「勝善寺聞法会」

副住職が、お話しします。テキスト『歎異抄 白日抄』

「わかってい
るつもり」が、
実は迷ってい
るということ
なのです。

題字下の言葉は、今年の「御年賀」にお渡しした『今日のこ とば』にあります。見開きペー ジをご覧ください。

それを読んでいて、植木等氏 が歌って大ヒットした「スーダ ラ節」がフツと頭に浮かびまし た。六十年以上前、私が小学生 の頃でした。ご存じない方は、 スマホで検索してください。

チヨイト一杯のつもりで飲んで いる間にやらハシゴ酒

気がつきやホームのベンチでゴロ寝 これじゃ身体にいいわきゃないよ 分かつちやるけどやめられねえ ア ホレ スイスイ スーダラフタ スラフ スイスイスイ スイスイ スーダラフタスラフ スイスイスイ

それは、高度経済成長期、社 会が豊かな未来に向っている実 感のある活気溢れる時代でした。 長時間労働など当たり前、仕事 第一の「猛烈社員」が闊歩して ました。

植木等氏は、真宗大谷派の僧 侶を父として育ち、将来は僧侶 になるよう期待されていたよう です。ですからクレージーキャ ッツのメンバーとして青島幸男 氏が作ったこの歌詞を歌うこと

になった時、さすがに悩んだそ うです。

そこで父親に相談したところ、なんと『わかつちやるけどやめられねえ』は、親鸞聖人の教えに通じる」と押し出されたというから驚きます。

もし今、著名人が何かしかかして、「分かつちやるけどやめられねえ」などと言ったら大騒ぎ、ネット上で大炎上間違いなしですよ。

今は、みんなが正義を掲げた善人の顔をして威張っている。そして、なんでも「わかつちやるつもり」で自分は棚に上げ、他人を厳しく批判する。

それが「実は迷っているということなのです。」

住職も副住職も、このことを伝えようとお話ししています。

仏教を聴聞しましょう。

私は、善人のふりをして生きていたから窮屈でした。

南無阿弥陀仏

春彼岸会

三月二十日(木) 春分の日

十時~十一時半

仏法聴聞にお越しください。

2025 令和7年
法語カレンダー
 Dharma Words

まこと一つの教え
 宗教とは
 は死を貫く

Religion surely is a guide for one to cope with living and dying.

真宗教団連合

西本願寺 東本願寺 専修寺 佛光寺 興正寺 錦織寺 毫攝寺 誠照寺 専照寺 證誠寺

山元派 三門徒派 誠照寺派 出雲路派 木辺派 興正派 佛光寺派 高田派 人谷派 本願寺派

真宗教団連合ホームページ <https://www.shin.gr.jp/>
 真宗教団連合 検索

※法語の解説も掲載しています。

このカレンダーは再生紙を使用しています。



『法語カレンダー』表紙の言葉は、浄土真宗本願寺派の僧侶であった中西智海師の言葉です。その言葉の随想を、真宗大谷派僧侶黒田浩明師が『今日のことば』で述べておられます。

その文中（下の文章）に「人の死が必然であることを「客観的には」誰でも理解しています。頭では自分事としても考えているつもりでいます。しかし、この『わかっていてるつもり』が、実は迷っているということなのです。」とありました。それを読み、再三迷っている自分をまた知らされました。南無阿彌陀仏・・・

さて宗教は、人生の「宗」となる「教え」、「宗」は「むね」と読みますね。「胸や棟」と同様に大事なか中心という意味があります。「宗教」を怪しく危ない。近寄りたくないとする節もありますが、それを求める要求は、ただだいてしまった現実を生きるしかない誰しもが、求めずにはいられないものです。しかしそれは、よほどのことがない限りは顔を出しません。

「生死」は、日常的には「生」と「死」とを別々に考えますが、仏教では「生死」と読み、生まれて死ぬまでの迷いの人生を表します。それを貫く「まこと」一つの教え。それは、浄土真宗です。

私たちは日々の生活の中で、「宗教とは」と問うことは、あまりないかもしれません。また、仮にそのような問いを持ったとしても、宗教団体や信者の社会的な振る舞いを見て、是か非か、というのを考えているに過ぎないのではないかと思います。しかし、そのように宗教を自分の外側において、対象化して考えてみても、宗教の本質は掴むことができません。

どのような宗教であれ宗派であれ、本来的に宗教とは、二つとない「まこと」を私たちに教えるものなのでしよう。中西智海先生のお言葉は、まさにこうした宗教の本質を述べられています。ここでいう「まこと」とは、この世界の真実そのものであり、道理であるといえます。この道理に適う生き方を求めていくところ、本当の意味での宗教であるはずで。

「まこと」を求めて生きていくことではじめて、逆に普段の私たちの生き方が、いかに道理に背いているのか、ということがはっきりと浮き彫りになってくるのだと思います。そして、その道理に背くものの見方の最たるものこそは、私たちの「生」に対する考えそのものではないでしょうか。なぜならば、私たちの日ごろの生の実感は、生を浪費し、死を悪いこと、という分別に基づいているからです。健康で若々しく生気に満ち溢れていることに価値を見出し、老いや病や死をできるだけ遠ざけたいというのが素直な実感だと思えます。

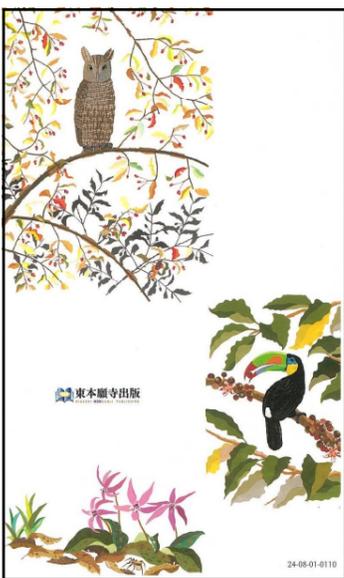
しかし、仏教は、私たちに生と死が離れてあるものではないことを、「まこと」として伝えてくれるのです。真宗大谷派の碩学で

ある清沢満之師（一八六三〜一九〇三）は、若くして肺結核に冒され、自らの死の問題と向き合われました。その中で「生のみが我等にあらず、死も亦我等なり」（『清沢満之全集』第六巻一二頁）という言葉を残されています。死をわが身の課題として真摯に仏法に聞いていかれたが故のお言葉ではないでしょうか。

翻って、生の価値のみを肯定し、死を忌避していく私たちのあり方を、むしろ助長していくような宗教であるとすれば、それは本当の宗教といえなのだと思います。

もちろん、人の死が必然であることを「客観的には」誰でも理解しています。頭では自分事としても考えているつもりでいます。しかし、この「わかっていてるつもり」が、実は迷っているということなのです。生死を貫くまこと一つの教えに出遇うとき、はじめて、いつか死にゆく生であることが自分自身の問題となるのです。と、同時に、常に真摯に死の問題と向き合っていることがいかに困難であるかも知られます。それは、私たちがどこまでも煩惱を捨て去ることができない、ということでもあります。

そんな時に、阿彌陀仏の本願が、我々凡夫愚人をこそ救いようとして願われていることが、一筋の光明として私たちに響いてくるのではないのでしょうか。



花まつり

4月6日(日)

13時30分～16時



みんなで、
お勤めして、
甘茶をかけて、

『もうじき食べられるぼく』を
勝善寺衆徒（所属僧侶）釋徹照
（鈴木正一郎氏）が読み聞かせ
し、短いお話をします。

その後、お茶を飲みお菓子を
食べながら歓談しようとして、「同朋
の会」で企画しています。

準備の都合上、3月末日まで
に参加申し込みをしてください。
※「同朋の会」は、二〇〇六年に結成さ
れた仏教を聴聞する「門徒の会」で
当寺所属門徒は、全員が会員です。



鐘突き堂南側山斜面に植えた
桜木保護のため、奉仕作業など
で草刈りをしています。そこに
渡る聖人川に架けられていた
木造橋が老朽化し危険なのを見
かねた写真右から狩野駿介氏・
池田義正氏・狩野昌也氏が、材
料を自前で調達し溶接し組み立
て頑丈な橋が架かりました。草
払い機を肩にかけ安全に渡れる
ように、片側に手すりまで付き
ました。手前の土地所有者峯信
一氏も「どうぞ使ってください」
と快く承諾くださいました。

みな様のお気持ちで、寺は相続
されています。南無阿弥陀仏

墓地通路敷設

二〇〇九年に造成した第二墓
地の区画がほぼ埋まりましたの
で、通路を敷設し新たに三十区
画ほどできました。

お墓は、お参りした方が亡き
人を縁として、仏教に出会う場
ですので、墓石には必ず「南無
阿弥陀仏」か「俱会一処」と刻
んでいただきます。

住職と共に仏教を聴聞する意
欲のある方に永代貸与します。
なお、ペット埋葬は不可です。



ご予約ください

- 月曜朝のお勤め 毎週6時～
 - 春彼岸会 春分の日
 - 3月20日(木) 10時～11時30分
 - 花まつり 同朋の会主催
 - 4月6日(日) 13時半～16時
 - 親鸞教室
 - 4月30日(水) 13時半～16時
 - 仏教を聞き語り(会)の会
 - 5月11日(日) 13時半～16時
 - 中佐久間講
 - 5月20日(火) 13時半～16時
 - 親鸞教室
 - 5月29日(木) 13時半～16時
 - 八日講十日講
 - 6月1日(月) 9時～11時
 - 奉仕作業
 - 6月8日(日) 8時30分～
 - 勝善寺聞法会
 - 6月8日(日) 13時半～16時
 - 仏教を聞き語り(会)の会
 - 7月20日(日) 13時半～16時
- ※地区講・月曜朝のお勤め以外
は、ズームで配信します。

世話人交代(二部下)

久保田 守様
有り難うございました。
永井 正行様
よろしくお願ひします。